



Governor Message

クラブ・リーダーシップ・

クラブ会長各位
クラブ幹事各位

4ヶ月が経ちました。皆様お元気にてロータリーをエンジョイして頂いていますか。たかがロータリー、されどロータリーとは昔からよく云う言葉ですが、之が実に言い得て妙な言葉ですね。これの深層の意味はこうではないでしょうか。常に正対していなくても良いが常に視野の中からは外さないように。

人生の主関心事がロータリーであって道を外した人が無いことはアーサー・シェルドンの“原因結果論”で示されていますが、これを私たちに了解できるように与えられている指針が決議23-34なのでしょう。

今月はクラブによってはストレスと感じられているかも知れないCLPについて述べてみたいと思います。

2004年11月の国際ロータリー理事会が、各クラブに対して、クラブが活性化し、安定、成長し“効果的なクラブ”になるためには、CLPによって毎年クラブの見直し（棚卸し）をしてみようという推奨したことにはじまります。ただしRIはクラブの運営にまで干渉する立場にないからこの検討はクラブ裁量権の中のものであることは言うまでもありません。ただし地区では今年度、来年度CLPのクラブ毎の検討、理解は必ずするようにおねがひしています。これは次年度片山年度にスムーズに引き継ぎできるように両者の間で合意していることとさせていただきます。

考えてみますと、ロータリーの運営を考えると、このクラブはどんな特徴を持っていて何処に長所、欠点があり問題箇所をどう修正するか。ということを的確に客観的に評価する方法は実に難しいことで科学的計量的になる基準がロータリーには無かったと思います。それがために毎年“例年並み”“当たらず触らず”の基本方針が中心にあったことは否定できないこととあります。“ロータリーに変えなければならないものと変えてはならないもの”があるという常習的な言い回しの中に“変えて波紋を起こしたくない”というある種の詭弁が入っているように思われてならないのは私だけではないと思います。

ここでCLPが日本中で（世界では了解済みのクラブが殆どで72%、検討していないクラブは28%の可成りの部分は日本のクラブだと思われる）アレルギー現象を起こしている原因を探ってみましょう。

1) クラブで話し合わない内は会員が理解できないこと。

これはその通りだと思います。現クラブ会長さんがエレクトの時に“会長要覧”と一緒に“クラブ・リーダーシップ・プラン (245-JA)”というRIから送付された国際標準テキストをお渡ししてあります。その上、クラブ会長要覧は殆どがCLPの解説書のような内容であり、クラブ運営はCLPを基準に施行する指針が記されています。当たらず触らずの儘にしておきますと次年度以後の会長がRIからの情報も徐々に理解できにくくなり、ロータリーのGlobal Standardから遅れてしまうことになりましょう。ですからクラブも採用などと気色ばらず、以下のような軽い気持ちで話し合っただけでは如何でしょう。もしお手元に資料が無ければRIのホームページ、RI日本事務局から245-Jaという文献を取り寄せてください。不明なときにはガバナー事務局にお問い合わせください。またあなたのクラブ計画書の冒頭に“クラブリーダーシップについての地区見解”を掲載しておきましたから一度はお目通しください。

2) 5委員会を常任委員会とすることが記されていること。

これはクラブの委員会構成を5つに纏める（統廃合する）事と読み違えられています。この5委員会はクラブ

ガバナーメッセージ

プラン(CLP)を解剖する。(Part1)

国際ロータリー2760地区ガバナー 江崎柳節

の衰退化を予防し活性化させる要諦であることは多くの消滅したクラブから学んだRIの検証事項であり、本当は検討に値する（委員会）項目であります。ただしクラブが今持っている十分機能している委員会は大いに賦活してあげてください。

3) 「採用する」というクラブに変革を要するかの如き考え

検討すればするほど合理的な近代的な運営管理のアイデアに満ちているが、いままでのRIの推奨クラブ細則に則ってきた流れの中で、この細則が根こそぎ一変するが如きお考えは間違いであります。検討してみてこれはよいことだと気が付いた点だけを“良いと取り”をするのが賢明な態度であろうと思われれます。変更事項と内容によってはクラブ細則の変更を要すると思われれますがこの手続きをためらってはならないと思います。クラブのマンネリの元凶がここにあるのです。細則を変えないで長年運営されている組織が良い組織とは言えないことは皆さんもご理解頂けることではないでしょうか。

4) 職業奉仕が奉仕プロジェクトに詳述されていない

これこそ誤解の最大のものでしょうか。ロータリーの根幹は“ロータリーの綱領”にあることは誰もが知っていることです。クラブ運営管理の一ガイドラインでしかないCLPに4大奉仕のことが盛り込まれている筈がありません。この誤解を解き改めて4大奉仕が永劫普遍的ロータリーが遵守すべき規範であることを確認するために今年4月の規定審議会であらためて4大奉仕がRIの定款に入れるよう制定されました。これは日本の提案であったことが興味あることとあります。

この様に日本のクラブが憂慮していた諸条件については徐々にではありますが理解が進み、検討を始めるクラブが増えて来たように思われます。このCLPは国際ロータリー100年の歴史の中でクラブに対する提案としては最大の贈り物であると評価されています。

さてCLPが問題意識を持たれている割にはその内容が正確に理解されていないという珍しい現象が起こっております。あらためてCLPが提起している5つの問題点を上げておきます。

1) クラブ管理運営

CLPとは無関係に以前から当地区では注目してきた問題点でもあります。申すまでもなく4大奉仕の中で職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕はロータリーがそのクラブの機能をかけて外に向かって奉仕する目的を持っていわば奉仕の方法論を問題にしますが、クラブ奉仕は違います。会員の自己研鑽、奉仕の理念の会得、倫理の高揚、相互理解と親睦、クラブの魅力の培育、会員の増強・維持など今クラブに失われつつある最も大切な機能を効果あらしめるための「内に向かっての奉仕」なのであります。いわばこの奉仕はロータリーの本質論を論じ、実践する自己のための奉仕なのです。クラブ奉仕委員長の職掌が如何に大きなものか“手続き要覧”には書いてあります。3大奉仕を除くクラブ管理運営の小委員会は“増強”も含めて全てクラブ奉仕委員長の職掌のもとにあります。CLPではその中で重要な以下の項目3)、5)は独立させて常任委員会（理事会委員会）に入れることも提案しております。



Governor Message

ガバナーメッセージ ▼

2) 奉仕プロジェクト

クラブの奉仕様態を具に見ると、意外なマンネリがそのままにされていることが少なくないことに気が付きます。すでに行われているプロジェクトにロータリーが賛助、協賛、援助、顕彰しているに過ぎない奉仕であります。

これは時には地域の真のニーズに合っている最も良いことである場合が考えられ、一概には申せませんが、地域奉仕はニーズを再チェックして限られた資源を、時には一点限定であっても、ロータリーらしい奉仕が求められます。地域に対する社会奉仕も世界に対する国際奉仕も難しいこととは思いますがそれぞれのニーズを十分考慮され限られた資源を有効に役立てたいものです。それぞれの奉仕プロジェクトでは、ロータリーが十分吟味した有意義な楽しいプログラムがたくさん用意されていることをご記憶ください。そしてクラブだけの奉仕資源の不足に備えてロータリー財団がそれを支援する役目を始めていることを委員に理解させてください。

3) 増強

これは申すまでもなく現状の最重点事項であります。それ故にCLPではこの委員会を常任（理事会）委員会にするよう推奨しているのです。クラブの委員会構成で是非に知っておかなければならないことはクラブ奉仕委員長が3大奉仕委員会以外の全てのクラブ奉仕小委員会の統括責任者である事です。もしクラブ奉仕委員長が増強の最高責任者であるという職掌を忘れておいてになり増強の問題を理事会でお骨折り頂かないとその配下の小委員会である増強委員長はその無力さを嘆き悲しむだけになります。クラブ奉仕委員長さんは一度手続き要覧をみてその職掌を再認識してください。クラブに3大奉仕以外でトラブルが発生したときは会長、幹事に矛先が向いてはなりません。クラブ奉仕委員長がこれの解決に汗みどろになるお覚悟が要ります。試しに会長は審議執行の最高責任者、幹事は執行の責任者ではありますが、クラブ内の問題の審議、解決はクラブ奉仕委員長の専権事項であります。

4) ロータリー財団。米山奨学会

このところロータリー財団の存在が極めて理解されてまいりました。寄付だけでなく財団から還付される地区財団活動資金（DDF）が地区で注目されております。また米山の年間奨学生の受け入れが今では財団奨学生に匹敵する年間800人に達しアジアを中心に多くの国家的指導者、ロータリーリーダーを輩出するに至っています。財団の世界平和、人道救援、災害援助などロータリーが世界に誇る成果を上げつつあります。これについてはクラブの両委員長さんに卓話の機会を与えてお話をお聞きください。

5) CLPの5項目な最後は広報です。

広報とは自己宣伝ではなく、ロータリーのもつ公共イメージを高める努力とそれを地域に正しく認識してもらうことの意味の検討についてです。Polio Plusのもたらした壮大な成果をロータリアンは知らないという現状についての再検討が我々には急務ではないでしょうか。公式訪問の卓話などでお話ししたいと思っております。

結 語

CLPははからずも日本のロータリークラブの良い面と悪い面を浮き彫りにする効果をもたらしています。まず日本のロータリーは世界中で最も職業奉仕をロータリーのステータスにとらえ今日まで来ています。いま世界のロータリーで職業奉仕がおごりになりつつあるとすれば今手を打っておかねばなりません。幸い先程の規定審議会で4大奉仕が堂々と国際ロータリーの定款に謳われ、永劫にロータリーの魂として何者にも侵されることのない金科玉条となったのは運きに失した観さえあります。

そのような現状にあつてクラブを定期的にチェック、棚卸しを試みいつも活性化され、理念に継続性があり、会員全体の参加で運営されていることをクラブの誇りとするようにクラブの引き継ぎがなされることはそれほど難解な手続きではないようにもおもわれます。

CLPでお困りの会長さんには、ガバナー補佐、地区研修委員会（委員長鈴木孝則）、地区ロータリー情報委員会（委員長伴禎夫）、ロータリー未来委員会（委員長杉浦寿康）が全力を挙げてクラブを支援するようお願いしてあります。ぜひご相談ください。